

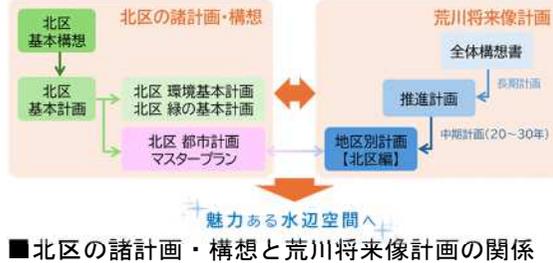
## 1 地区別計画とは(P1-1~1-5)

地区別計画は、推進計画の改定を受け、荒川下流部の沿川自治体が主体となって、それぞれの地区における今後概ね20~30年間の川づくりの取組と今後の維持・管理の方針をとりまとめたものです。

## 2 荒川の川づくりの考え方(P2-1~2-27)

### (1) まちづくりの中での荒川役割

地区別計画【北区編】は、これらの構想等と協調して、荒川下流沿川の自治体や荒川下流河川事務所と連携し水辺環境の保全・再生を図るとともに、災害対策・災害時の活用やスポーツなどによる健康づくり、イベント・レクリエーション空間として、荒川の魅力ある水辺空間の実現を図る行動指針として策定するものです。



### (2) 基本方針

推進計画で示された“グリーンインフラを含めた川づくり”を通じて、地区別計画では、以下の観点で「健康・Well-beingな川づくり」を推進します。

#### 【コンセプト】

荒川とともに育まれた水文化の継承と発展

#### 【観点】

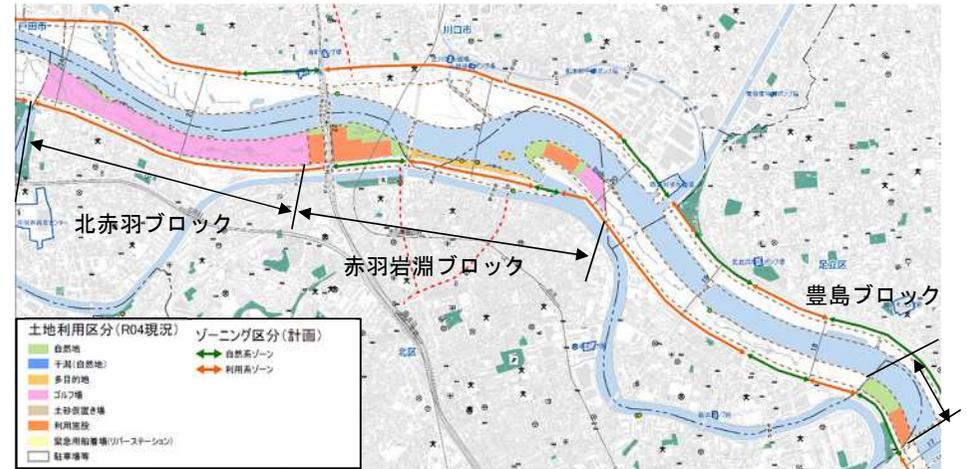
- ① 多くの生きものを育む荒川・きれいで豊かな水が流れる荒川
- ② 河川空間の節度ある利用ができる荒川
- ③ 安心して快適な暮らしができる安全な荒川
- ④ 自然豊かな水辺空間の再生
- ⑤ あらゆるひとが川と触れ合い、あらゆるひとがくつろげる荒川

### (3) 土地利用計画

地区別計画においては、主に自然地の適切な維持管理を前提として保全を図っていく「自然系ゾーン」、主にスポーツグラウンドや公園・緑地等の適切な利用を図っていく「利用系ゾーン」に大別して、詳細な土地利用区分を設定しています。

### (4) ブロック別計画 (計画内容は次頁参照)

北区管内の荒川を地域の特徴を踏まえ、3つのブロックに分けて整備の方向性や取組内容をまとめています。



## 3 荒川の維持・管理の考え方(P3-1~3-15)

荒川の良好な河川空間を維持管理していくため、荒川下流河川事務所（河川管理者）、北区、沿川住民の役割を明確にしていきます。

#### 荒川下流河川事務所

荒川下流部全体を見渡した視点から治水安全性の確保、利水、河川環境の保全のための取組を行います。

#### 北 区

河川敷を利用する沿川住民への行政サービスやまちづくりの一環としての視点から、占用地を中心に取組を行います。

#### 沿川住民

公共空間である荒川河川敷において、ごみを捨てない、利用マナーを守るという適切な利用に努めることが基本になります。

## 4 計画の実施に向けて(P4-1~4-2)

- 計画の推進体制は、地区別計画の策定主体である北区と河川管理者だけでなく、「沿川住民・活動団体等」と「行政」が連携・協働のうえで整備や維持管理を実施していきます。
- 地区別計画では、計画の進捗状況などを経年的に把握し、課題が見られた場合等に迅速に対応することを目的に、計画のフォローアップを実施するとともに、必要に応じて計画の見直しを検討します。

## 【ブロック別計画の内容】

### 北赤羽ブロック

【概況】区内最上流となる都立浮間公園からJR荒川鉄橋付近に至る区間で、特性としては、河川敷利用がすべてゴルフ場となっていることがあげられます。

【課題】広域イベント時に河川管理者、占有者、区、利用者との相互理解、連携が必要となる点です。

【全体方針】ゴルフ場のエコアップや河川防災ステーションなどの既存施設を利用したにぎわいづくりに努め、あわせて関係機関の相互連携を図ります。

### 赤羽岩淵ブロック

【概況】JR荒川鉄橋付近から岩淵水門下流側の足立区との区界までの区間とします。このブロックの河川敷は、イベント・スポーツ、レクリエーション、自然地など非常に多くの目的に対応した緑地公園が整備されています。また、旧岩淵水門、隅田川の分流地点といった特徴的な資源もあるブロックです。

【課題】水際部の自然地(北区・子どもの水辺)では、開園から20年経過し、大木化した実生木や特定外来生物の対応が生態系維持のために必要となっています。また、旧岩淵水門の土木遺産としての歴史・文化の継承や、まちなぎわいが生まれる水辺空間の活用など、新たなまちの魅力と交流を創出し、河川とまちが一体となる取組みの検討が必要です。

【全体方針】自然環境の保全とともに、イベント・スポーツ・レクリエーション・エコロジー機能の両立のもと、多様な利用に応え、東京の北の玄関口として人々の交流とにぎわいの拠点となる水辺空間整備を推進します。

### 豊島ブロック

【概況】豊島五丁目地内のブロックで、上流側は自然地の散策エリアとして整備され、下流側はスポーツ広場として利用されています。

【課題】推進計画では、当ブロックの河川敷利用について、「自然系ゾーン」としているため、自然度向上を推進していく必要があります。

【全体方針】推進計画に示された「自然系ゾーン」として、水辺の自然地の再生などを図ります。

■緊急用河川敷道路、河川防災ステーションと下流側の「北区・子どもの水辺」等をネットワークとして結ばれた散策路として整備を促進します。

●堤内地・高水敷・水辺を広域的に連続する散策路の整備

■水際部の干潟は、積極的な保全を図ります。



■オオヨシキリの生息する良好なヨシ原等を核として、自然地の保全を図るとともに、ゴルフ場のラフや池等のビオトープ化を推奨・推進します。

- ゴルフ場内のエコアップ
- ゴルフ場内の農業使用に配慮
- 自然環境に配慮した護岸の維持管理
- 水際と一体化した湿地の保全・再生

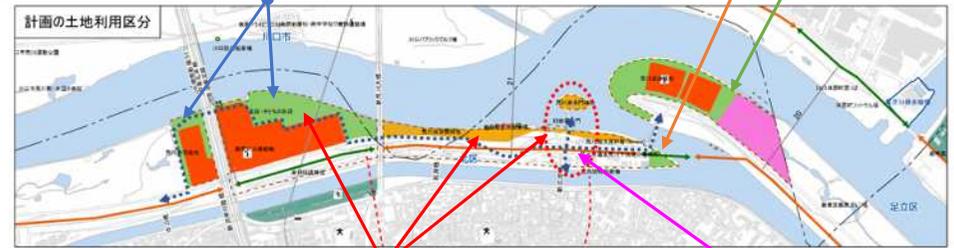
■計画の土地利用計画図（北赤羽ブロック）

■赤羽ゴルフ場端部から新荒川大橋の水際部は、現状の干潟の保全を中心に自然地として上下流に連続した多様な自然を育む水際線を創出します。

- 干潟の保全及び水際と一体化した湿地の保全・再生
- 「北区・子どもの水辺」の底泥除去やヨシ/オギ群落の保全等環境保全対策の継続実施（特に特定外来種対策には早急に取り組む）
- 上流のゴルフ場脇を通り緊急河川敷道路や河川防災ステーション等をつなぐ散策路の整備

■荒川下流河川事務所下流側の未利用地は自然利用地としての自然度の向上を図ります。

■岩淵水門下流側の未整備地の整備方針を再検討します。



■イベント・スポーツ・レクリエーションでの適正な河川利用を促進・活性化します。

■まちなぎわいが生まれる水辺空間の活用など、新たなまちの魅力と交流を創出し、河川とまちが一体となる取組を検討します。

- 赤水門ムーンライトスタンド、荒川知水資料館の有効活用
- 関係団体と連携した観光施策、魅力発信の取組推進
- 民間活力の導入

■荒川放水路の治水上の意義や建設の歴史、ともに育まれてきた地域の歴史の継承、旧岩淵水門を中心とした歴史的資源の保全・活用を推進します。

●荒川知水資料館を活用した展示企画の充実、保存の継続、土木遺産としての顕彰

■計画の土地利用計画図（赤羽岩淵ブロック）

■自然地の自然度向上を図るとともに、区民が自由に利用できる開放空間として維持管理を行います。

■イベント・スポーツ・レクリエーションでの適正な河川利用を促進・活性化します。



■周辺施設とのアクセス向上と、岩淵・豊島・新田地区方面と連携した水辺散策路の整備を図ります。

■計画の土地利用計画図（豊島ブロック）